

## 討論メモ

### 「新しい資本主義」

令和 4年3月15日

1. 3月は、岸田首相の唱えた「新しい資本主義」とは何なのか？野瀬隆平さんに様々な角度から検討いただき、レジメにまとめ（HP に掲載済み）、詳細にご説明いただきました。

そもそも資本主義とは何か？

十三世紀に教会が利子を認めたのが資本主義の始まりか、

マルクスの「資本論」の残した大きな影響、

ソ連の崩壊と資本主義の復権、

資本主義は人々にとってプラスかマイナスか、

そして、「新しい資本主義」とは何か、

をピケティーなど著名な学者の見解などを交えて解説いただきました。

2. 続いて出席者 9 名による意見交換に移り、下記のような意見が出されました。

・岸田首相の本意はどこにあるのか、言説が変わっていくので、わからない。

- ・アドバルーンは上げてみたものの、中身は固まっていないのではないか。
- ・新しい資本主義をうんぬんするなら、まずは過去 30 年も誤った経済政策を続けてきた反省から始めるべきだ。
- ・日本は特にリーマンショック後の財政金融政策を誤った。白川総裁の日銀も危機に対応できなかつたし、経済学者も誤った理論を流し続けた。
- ・2008 年に民主党を選択した国民にも責任がある。
- ・竹中平蔵の改革が日本にデフレを蔓延させた。ビッグバンで現価主義の会計基準を導入して企業財務を圧迫して、経営を委縮させた。
- ・借り手のいないデフレの時代には、政府が国債を発行して財政出動するしか脱出の方法はない。
- ・インフラや教育など、財政の投入先はいくらでもある。公共投資が悪者扱いされたが、緊縮の煽りで道路や港湾など老朽化が進んでいる。
- ・各国の実績を見ると財政支出の伸びと経済成長は正の相関にある。日本は 30 年間、財政を抑制して伸びず、経済も成長していない。
- ・生産性の向上と教育投資も正の相関にある。
- ・政府は税金などを取りやすいところから取るという安易な対応をしてきている。例えば、医療分野では、政治圧力の強い医師会には甘く、その分を製薬業界

を締め付けるなどの現象が起こっている。

また、医師、看護師、検査担当者との間の給与格差も広がっている。

- ・会計基準を始め、日本は米国の経営手法を取り入れ過ぎた。

- ・戦後の隆盛をもたらした日本式の経営手法、哲学をすべて捨ててしまった。

- ・かつては新人とトップの給与差が低かったが、近年は労働者の賃金が据え置かれる一方で、役員給与が急増している。

- ・非正規社員が急増している。

- ・公平の概念が薄れてきているのではないか。徳川時代などは、安定した統治には公平が重要視され、裁判も極めて公平に行われていた。

- ・北欧は豊かな国がそろっているが、人々が優秀なのか。

- ・南北問題ではないか。付加価値の高い仕事が北に集中し、低い仕事が南に回されている。グローバリズムの弊害だ。

- ・中国の例に見るように、人権を無視したり、公害を無視して安い製品を輸出している。グローバル企業はそれを黙認して利用しながら利潤のみを追求している。

- ・日本はグローバリズムに乗り遅れたのではないか。
- ・近年は日本でも優秀な若者がコンサルティング会社に就職する例が増えている。
- ・地道な仕事が軽視され、M&A などの派手な分野が耳目を集めている。
- ・金が支配する世の中になっている。"お金の魔力"からいかに脱出するか、みんなが知恵を絞るべき時だ。
- ・十年前に想像したことと、現在は全く違っている。今想像していることが十年後はどうなっているか、生き延びて確かめることを楽しみにしている。

以上